

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	設楽町歴史民俗資料館(仮称)・道の駅	階数	地上2F
建設地	愛知県北設楽郡設楽町清崎中田23	構造	RC造
用途地域	指定なし・指定なし	平均居住人員	50人
気候区分	5地域	年間使用時間	2,800時間/年
建物用途	物販店 集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年9月 予定	評価の実施日	2019年3月1日
敷地面積	6,109 m <sup>2</sup>	作成者	(株)浦野設計 冬野達也
建築面積	1,675 m <sup>2</sup>	確認日	2019年3月1日
延床面積	2,902 m <sup>2</sup>	確認者	(株)浦野設計 岡部六弥



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	93%
③上記+②以外の	93%
④上記+	93%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

音環境	3.2
温熱環境	2.6
光・視環境	3.0
空気質環境	3.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

機能性	3.7
耐用性	3.2
対応性	3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.9

生物環境	3.0
まちなみ	5.0
地域性・	3.5

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	2.6
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源	3.4
非再生材料の	3.7
汚染物質	3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	3.2
地域環境	3.1
周辺環境	3.1

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

**3.2**

#### ③敷地内の緑化

**3.0**

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

**22.0 %**

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

**0.0 %**

#### ②資源の有効活用

**3.4**

#### ④地域材の活用

**4.0**

<外装材に使用した地域性のある材料>

外装材に設楽町産材(焼杉)使用

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

木造小屋組みに設楽町産材使用

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています



<b>3 対応性・更新性</b>				3.2	0.29			-	3.2
3.1 空間のゆとり				4.1	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高: 4m	5.0	0.19			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率: 0.289	4.0	0.81			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				2.6	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		2.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				2.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30			-	3.9
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30			-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	山並みに応ずる屋根形態	5.0	0.40			-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30			-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	設計プロセスに町民参加	5.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				2.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.4
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI <sub>lm</sub> =0.67	5.0	0.30			-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			-	3.0
3 設備システムの高効率化				2.6	0.30			-	2.6
4 効率的運用				3.0	0.20			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				3.5
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水コマ、凝音、節水型便器設置	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.7	0.63			-	3.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	合板、ビニル床材	4.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自	設楽町産材100%使用	5.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	仕上げ材に自然素材を使用(下地LGS)	5.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22			-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含む材料の使用制限	4.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値: 98.30%	3.2	0.33			-	3.2
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			-	3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自	保水性舗装、浸透樹設置	4.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	安全な車輻動線を確保	5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33			-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			照度・発行方式適性設定、点滅なし、動かない、着色なし	4.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

# 重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

設楽町歴史民俗資料館(仮称)・道の駅清瀬(仮称)

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.2</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.4</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:22%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>4.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	外装材に設楽町産材(焼杉)使用
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	木造小屋組みに設楽町産材使用

## ■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 設楽町歴史民俗資料館(仮)

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地周辺の自然豊かで美しい山並みに呼応する建築を目指す</li> <li>・東三河の森林資源を生かし木材を豊富に活用する</li> <li>・長期に渡って木材を劣化させず美しく保つ建築計画を行う</li> </ul>
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示室に適した空間とするため吸音材(壁・天井)を採用</li> <li>・F☆☆☆☆を全面的に採用</li> </ul>
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然風景を取り込むスロープを主動線としバリアフリーに配慮</li> <li>・うねる木造小屋組みを現しとし、主要諸室を変化に富み快適な空間とする</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物背面の川、森へつながる外部空間(アプローチ)の創出</li> <li>・地域性のある外装材の採用(焼杉等)</li> </ul>
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複層ガラス、Low-Eガラスによる熱負荷低減</li> <li>・日射対策にロールスクリーン、縦型ブラインド設置</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生器具を節水型器具とし使用水量の低減</li> <li>・木材はすべて地域産材を使用</li> </ul>
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風の通り道を遮らない建物配置形状</li> <li>・浸透柵、浸透性舗装による雨水流出抑制</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の歴史的資産として田口線で使用されていた車輛展示を行う</li> </ul>